

はちおうじししょうがいしゃいきじりつしえんきょうぎかい
八王子市障害者地域自立支援協議会
へいせい ねん ど だい かいそうかい ぜんたいかい かいぎろく
平成24年度第2回総会(全体会) 会議録

(開催日時) 平成25年2月26日(火) 10:00~12:00

(開催場所) 市役所本庁舎事務棟8F 802会議室

(出席者)

・委員24名出席

松井 亮輔、中西 正司、大須賀 裕子、髙橋 義人、山本 誠、土居 幸仁、夢田 靖史
塚田 芳昭、風間 美代子、芝 敏子、大窪 卓真、井上 美文、崎田 京子、山同 美空
松尾 隆司、内田 伊太郎、氏平 啓子、上田 広美、田丸 俊彦、竹下 倫平、加藤 保武

・障害当事者委員支援者(知的サポーター)1名出席

光岡 芳宏

(欠席者)6名欠席

(事務局)細井障害者福祉課長、山本主査、古澤主査、松田主査、櫻田主査、井上主査、清水主査、後藤主任。小河主事)

1 開会

・細井障害者福祉課長挨拶

細井)本日の午後は中核市特別委員会があり、中核市に取り組む動きも本格化している。前回は財源の問題で移行はならなかったが、今回は都の見解で猶予ができた。来年以降進むと思われる。

また3月1日に補正予算の審議が始まる。障害関係では12億円。主に児童関係。また無認可施設の自立支援法への移行の予算が含まれている。25年度予算については、後で細かい数値は申し上げるが、11パーセント増しの見込み。来年度新事業も予定しているので、改めて説明する。進行は中西会長からよろしく願います。

・以降は中西会長が進行

中西)今回は主に各部会活動の報告などが主な内容になる。

井上) (資料説明)加えて平成25年度の予算について事務局から説明を。

山本(市)) 予算の関係を説明します。25年度については経済の低迷が進む中での夢おりプランの実現を盛り込んでいる。予算の中身としては歳入については増額。歳出は半分が民生費を占めており、そのうち障害者福祉の予算は116億で前年度比から増加になっている。増加の理由は計画策定、児童福祉、難病の障害者福祉サービスの開始が見込まれている。新しい事業としてはヘルプカードの作成、中程度の難聴児の補聴器助成、ケアホーム開設法人への助成が盛り込まれている。また、この機会に自立支援協議会の予定を説明する。来年度の予定としては全体会の開催を3回予定。第1回は福祉計画のモニタリングを行う。権利擁護部会の啓発の講演会については今年も予定。内容については権利擁護部会で決めていく。また、ヘルプカードについてはプロジェクトチームを作って対応していく。また地域移行・

継続支援部会が防災マニュアルを作成していく点も次年度の活動になる。

中西) 質問はありますか？なければ部会報告をお願いします。

土居) 権利擁護部会ですが、前半は講演会の企画を中心に進めた。また、ガイドブックの内容検討についても行った。障害者虐待についても検討材料になった。条例制定記念イベントについては毎日新聞の野沢さんに基調講演をしてもらい、当事者の方に自分の体験を報告してもらった。185名の参加があった。また、映画の上映を行い、多数の参加者があった。当事者からの報告には高い評価があった。民生委員の方など、関係者には多数参加していただいたが、一般の方の参加については周知が不十分だったのではないかと意見が挙がった。ガイドブックについては櫻田の方から説明する。

櫻田) 4000部を作製したが、その後要望が挙がったので、合計6000部を市民センターで配布している。またホームページについてもアップしている。

土居) ホームページ上での視覚障害者への配慮は？

櫻田) (読み上げソフトで読みやすい) Word版を掲載するなど配慮している。

土居) 掲載内容については塚田さん確認をお願いします。

土居) 権利擁護部会の今後の活動ですが、事業所や職員向けの説明会、逐条解説本の発行を進める。

山本(市)) 解説本については法制課と調整を進めている。

土居) (資料の説明。読み上げ)。

土居) 差別については駐車場のあり方などが挙がっている。小学生が中学校に上がるにあたって、エスカレーターがなく、希望の中学校に進学できなかったなどがある。後は3月5日の部会で今後の部会員の増員などを考える。他、広報の番組、相談事業所の連絡会議の決定などが今後の議題だ。

中西) 講演会について参加された方から感想があれば

竹下) 当事者からの発言があったのは良かった、が、若い世代の参加など一般の方の参加が少なかった。

中西) 来年以降、どういう人に参加してもらえばいいかは考える必要があるか。

土居) 関係者だけでなく、一般の方向けに条例よりも障害の事を知ってもらうようにする必要があるのでないか。夢美術館などで障害のある人の作品展示をするのがよいのでは？映画祭など一般の人が入りやすいイベント、切り口が必要か。

竹下) 若い人は広報や新聞を見ないので、メディアでのPRの工夫が必要かと。

中西) ホームページなどでのPRは？

山本(市)) 広報はボリュームに限界があるがホームページは可能かと。

松井) ガイドブックは配布だけでなく、活用を考える必要がある。今後についてはイーजीリード。振り仮名だけでなく、読みやすさを考えた方がよいかと。

中西) 知的障害者版は作ることにしているのか

土居) 今考えている。

松井) 地区ごとに勉強会を行っていくなどがよいのではないかと。

中西) 病院での筆談問診の是非など、具体的に配慮が必要な事は書いているので、それが市民に伝わっていくとよい。

崎田) PTAなどを通じて学校で説明を行えるなどすればよいのだが。

土居) 第一若駒さんでは、学校で福祉教育を行っているが、社会福祉協議会を通じてその際にPRが

できれば。

井上) 今やっているのは、車いす体験や高齢者疑似体験を中心としている。身体障害の方に講演をしてもらったり、盲導犬を連れて話をしてもらっている。だいたい教員から依頼があって行う。

多田) 差別は全体的に減っているけども、まだまだ理解は足りない。

細井) 市内の学校には各校5部を配布するなど、機会があれば配布している。また違うアピールがあれば。

芝) (自施設での)学生の介護等体験などで取り組みを説明している。他はボランティアで関わった方に配布するなどしている。PSWの集まりや民政委員の集まりなどでも行う予定。ケアホームなどの立ち上げに際しても小さいお子さんをお持ちの家庭から反発があるので引き続き障害者理解の啓発・PRが必要でないか。

山同) 災害時の対応が不安、地域の障害者をリストアップしてほしい。

中西) 障害部会などで話をしてもらうのは可能か？

細井) 災害時の名簿については、発生時の対応については、国がガイドラインを決めて配慮が必要かを判断するかを決めていく。

風間) 企業や学生さんにガイドブックを配る事はできるのか？市外についても可能か？

細井) 在庫はあるので渡せる範囲であれば。いろいろなところで配る分にはいいのではないか。

崎田) 必要部分のコピーは可能なのか

細井) 構わない。

多田) 先ほどの防災の名簿は必要な時に必要な名簿が回るのが望ましいのではないかと。障害者の方が地域の民生委員さんがどんな方かはわからないので。相談事業所やヘルパー事業所と関わりあるかはわからないが、それらに回るのが望ましいが、中核市になるにあたって、名簿の在り方は考えて欲しい。

中西) 個人情報開示の方向は、国が考えているのは本人が望む形なのか？

細井) 以前の報道では全員を公開する流れだったが、個別にすると必要な範囲がどこまでなのかわからない。市の福祉総務課が介護保険対象者なども含めてリストアップし、各事務所に配備している。本人からの申し出に基づくのが今考えている八王子のプラン。

多田) 当事者が名前の公表を拒否する背景があるのをわかってほしい。

山本誠) 次に資料に基づいて地域移行。継続支援部会について報告する。権利擁護部会よりも遅れて発足したが、地域での課題を毎日の生活に活かしていくように対応している。開催状況は隔月。第2回以降は事例検討にしている。第3回は病院からの地域移行。相談支援の仕組み説明も含めて行った。25年度の計画については今後も隔月で、住まいの問題、相談支援、子ども、高齢の障害者、触法の問題を取り上げる予定。加えてケアホームの実態調査、防災マニュアルの作成を行う。地域移行定着会議についても参加を考えたい。14名の体制で行っているが今後は裾野を広げていきたい。あと周知の話。計画は26年だが、今年度から少しずつ取り組めればと思う。

大須賀) 地域の方が高齢化した時に地域で支えていく必要性を感じた。

芝) 部会だけでなく、協議会で共有化していくことの必要性を感じる。

氏平) (部会で就労について話したが)一事例だけでは、なかなか市全体の課題は見えづらいが、今後とも考えていきたい。

加藤) 地域生活と就業生活がつながって見えた。八王子での地域移行を引き続き考えたい。情報発信

をしていかない。

山本誠) 計画の在り方について、課題を整理しながら対応していく必要がある。10年のできる事、この3年で考えること整理できれば、防災部会では他市ではいくつかの部会が連なっていたりする。25年度については別の部会を巻き込んでいく事も必要か。

山本誠) 今回、都の自立支援協議会の状況をまとめたものを配布した。今後、それぞれの部会で活用できれば。

松井) 地域移行定着会議と移行支援部会との関係は？

山本誠) 今後連携を考えていく必要があるが、いろいろな団体で協議する場をつくることができると考えている。虐待防止の話を入れられるようにするなど。

松井) そういうものは運営会議でできれば。

風間) いろいろな人が参加できる機会は必要。

中西) これからの時代、いろいろな課題を発掘していければ。

土居) 部会の議事録は全大会の委員に回っているのか？

塚田) 今のところは部会員だけに留めている。

土居) 地域移行の事例報告などは計画策定の資料にもなってくるので、そのあたりの議事録公開はしてほしい。

細井) 議事録の公開は運営会議で話し合い、公開を考える。メール送信なども可能。

松井) ホームページの公開はどうか？

山本誠) 全体会議の議事録と運営会議の内容主旨は公開している。

細井) 竹下委員が学校を卒業されて委員を退任される。何か一言お願いする

竹下) わか世代として貴重な経験をさせていただいたと考えている。

中西) 欠員補充は？

山本(市)) 当面は欠員で。

塚田) 最後にせつかくの機会なので普段発言機会の少ない委員の方の意見も聞きたい。

大田) 障害者の目指す生活像と現実と理念のギャップ。啓発は難しい。企業は厳しいが、経営者もこういうものに耳を傾ける機会がない。教育の在り方。啓発資料を配るのは易いが、相手の方の心に理解を向けられるか。議論をしないとだめかもしれない。1年通じて「自立支援」という言葉に興味はあったが、これは要求で、自分たちが自立していくためには何が必要かの思慮が足りない。どちらも接点を求めていると思うが、結局は啓発が大事だ。相手の中に入っていきには(講演などで)有識者が「公」の場で話すのも大事だが必要なのは子どもへの教育。校長会に訴えるなどがよいかと、ガイドブックは良いが、必要なのは実績。就労者数、自立しているのはどれくらいなのかを明確にする必要あり。その点には不安感がある。

中西) この協議会の委員も福祉の人間ばかりなので率直な意見を感謝したい。

内田) 町会の課題としても一人暮らしの人への対応は課題なので取り組んでいきたい。

・以下次年度の日程の協議。